



合同会社人材ドック 代表 **須田万里子 様**
 一般社団法人キャリアコンサルティング振興協会 代表理事
 一般社団法人 キャリアコンサルティング振興協会 (ccea.jp)



現在、全国に「キャリアコンサルタント(国家資格)」を取得している人は約6万5千人。「人生100年時代、働き方改革、DX化」と社会が大きく変化するなかで今後益々この分野の人が求められ「キャリア支援の再設計」など、コンサルタント自身の役割も変わってくるのだといいます。今回お話しを伺った須田万里子さんは、大手人材会社で管理職として勤務しその後、自治体、ジョブカフェ、大学、専門学校、企業などあらゆる現場で35年以上キャリアコンサルタントとして活躍されているトップランナー。「**キャリアコンサルタントにもっと現場力を**」を旗印に、「キャリアコンサルティング振興協会」の代表としても全国を飛び回っていらっしゃいます。

ちょっと、身の上話をしてもいいですか？

現在、年間200件以上のセミナー、カウンセリングに登壇される須田さん。まず最初にお話し下さったのはここに至るまでの来し方。実は、そこにこそキャリアコンサルタントとして歩む人生の原点があったようです。

▶私が結婚した当時、経済も右肩あがり「女性は結婚したら働かなくてもいい」といった雰囲気がありました。「結婚してお母さんになること」が夢だったのですが、現実には残念ながら子供を授かることができず、キャリアビジョンを転換。派遣会社にアルバイトとして勤務し始めたのです。

ただそこで見たものは「自分が得意とすることを活かして、**あえて派遣**(仕方なくではなく)で働くプロフェッショナル思考の強い女性たちの姿。私は「人生は自分で選ぶことができる」と彼女たちの働き方を見て学びました。

その後、大手人材会社に正式に採用され、女性管理職として活躍されるのですね。順調にキャリアアップされるなか、50歳で独立とは、少しもったいない気もしますが...

▶そこは無謀でしたね(笑) ただ、このまま安全な会社において、言われたことをするだけでは60歳までもたないだろうと。自分の責任のとれる生き方をしようと意気揚々と独立した訳です。まだできたばかりの国家資格「2級キャリアコンサルティング技能士」(全国にまだ100人ほど)もっていましたし、仕事はいくらでもあるだろうと楽観的に考えていたのです(笑)

ところが一向に仕事はきませんでした。6か月で貯金はなくなり、3年ほどはアルバイトもしました。そんな悶々とした日々、「**お客様の困っていることを提供すれば仕事になるのでは**」と企業経営者や大学のキャリアセンター、ハローワークなどで話を聞いてまわることを始めたのです。

入り方支援ではなく、生き方支援への転換

▶話を聞くうちに「根っこは同じだな」と気づきました。それまで履歴書やエントリーシートの書き方といった採用「入り方支援」が多かったのですが、採用する側は「過去は聞くけど、見ているのは未来」だったのです。つまり、**採用ではなく活用**、これから先もずっと会社に貢献してくれるかです。

そこで「御社ではこういう人を求めているのではないのでしょうか。私にはこういう経験や実績があり、入社したらこういう風に頑張りたいと思います」といった過去を根拠に仮説を立て、**未来を語る「生き方支援」**の企画書を作りました。1社にそれをプレゼンした後は、まるで「わらしべ長者」のように何もしなくても広がっていき、東京都や大学、企業とどんどん繋がっていきました。

これは転職するときにも同じで、「自分の仕事内容を棚卸し、雇う側のメリットを考えながら面接の準備をする」ことが大切です。組織の中だけの肩書や役職を強調してもあまり意味がありません。

上手に語るより、相手に興味を持つ

お仕事柄なのか、須田さんはやはり聞き上手ですね。何か秘訣はありますか。

- ▶ そうですね(笑) 実は私は人の話を聞くのが苦手なんです。昔、カウンセラーの先生に「須田さん、聞いてないよね」と突然言われて驚いたことがあります。頷いているけれど、本当は次に何を話そうかと考えていたんですね。元々相手を説得することが多い仕事でたたみかけるように話すタイプなんです。「考えるのを1回とめて、相手の話を聞きなさい」といつも自分に言い聞かせています(笑)。

もし、会社を辞めたいと相談されたら

- ▶ 今よく論理性とか分析力が大事と言われますが、この仕事で一番大切なのは聴くことです。例えば、「会社を辞めたいので、次の仕事を紹介してください」と相談されたとします。「そうなのね。条件を教えて」ではNGです。「じゃあ、どうしてというところをもう少し教えてもらってもいい?」と聴いていくのです。

現在、企業の問題は「離職率の高さ、育児介護の休業、復職率の低下、中堅社員のモチベーション低下」など課題山積。辞めたいという人の言う分を聞くだけではただ転職を繰り返させるだけになってしまいます。ここでは「仕事は楽しいけど、上司が私のことを認めてくれない」と隠れていた本音が聴いていくうちにどんどん出てきました。この場合は「上司が認めてくれない」がキーワード。ただ寄り添って聞くだけでなく、理解しながら聴く、聴いてアセスメント(評価)できることも重要です。

寄り添うから、解決支援に

- ▶ この「ただ頷いているだけでは仕事はもらえない」は、私が仕事がなかったときに学んだことです。クライアントは私の話を聞きにきているのではなく、例えば「幸せになりたい、いい仕事につきたい」と解決策を求めにきている訳です。私は預言者や占い師ではないので、未来を教えることはできませんが、その人のリソース(資源)の棚卸しをした上で一緒に未来予測をします。一般的にキャリアコンサルタントは寄り添うイメージが強いかもしれませんが、きちんとその人にとって必要な「情報提供」ができることも大切です。

人生100年時代を迎えて「人生三毛作」に生きる

- ▶ 「人生100年時代」と言われますが、定年後の自由な時間は思った以上に長いです。最後まで元気に歩き、食べ、人間の尊厳を保ちつつ生きていけるか、多くの方は不安に感じています。

私は現在64歳ですが、独立までのファーストキャリアで「専門性を作る」、セカンドキャリアで「自分の看板で食べていく」、そしてこれからのサードキャリアでは「これまでのキャリアを社会に活かして、自分から何か生み出したい」と思っています。つまり「人生三毛作」で考えているのです。

具体的には家族を愛し、好きなことを気の合う仲間と一緒にやりたいのですが、それ以上にやりたいのが、今までの恩返しというのか「**キャリアコンサルティングを通じて、社会を幸せにできたら**」ということなんです。

そのために「キャリアコンサルティング振興協会」を7年前に作り、全国のキャリアコンサルタントとつながってネットワークを作り、全国大会も各地で毎年開催しています。学び、自分の専門性を高め、引き出しを多くすること、また、それが後進の育成にもつながればと考えています。

キャリアコンサルタントの仕事は理論だけでは解決できないことが沢山あります。そのために「きちんと自分の人生を生きること」不遇や挫折など色々な体験が全部自分の仕事のこやしになるのです。私はこれからの時代、挫折があればあるほどいいキャリアコンサルタントになれると思います

インタビューを終えて



最後に仕事をしていて「嬉しかった瞬間は?」と伺ってみました。「昨日まで泣いていた人がスッと立ち上がって、社会の一員になっていく」、そんな状況に立ち会って「毎日嬉しい。入ってすごい!!」といつも思っています。須田さんにとってまさに天職なんだなと感じました。